



「思い」

— 部室壁面鉄オブジェ

制作者からのメッセージ —

鍛冶 児玉 政輝

今私たちは高度に発達した文明の中に生きています。

なぜ私はここにいるのか？

私にはどんな人生が待ち受けているのだろう。

夢をもち遠い過去から明日に向かって、思いをめぐらせてください。

その思いがかなうことを信じて、私のオブジェを見つめて下さい。

晩秋の紅葉の中でひととき鮮やかな朱色に染まるのがハゼの木です。

やがて葉が落ち高木の小枝にはたくさんの実が連なっています。

大分県の民謡に「はぜとり歌」があります。

「朝もはよから～ヨ～

何の因果で～エ～ やれ はぜとりオ～なろうた～ア～」

はぜとりの作業はとても危険で過酷な作業だったようです。

かつてこの内子の町は「木ろう」生産で質量ともに日本一でした。

「木ろう」の用途は30品目以上にのぼりその中の一つに和ろうそくがあります。

1890年からホンコン、北米、ドイツ、イギリス、フランスなどへ輸出され

1900年にはパリ万博で銅メダルの荣誉に輝きました。

その名残が「八日市護国の町並み」なのです。

鉄のオブジェ制作にあたり、このハゼの木のイメージを中心に据えて構成しました。

横たわっている大きな人のようなものに二人が立ち、一人は丸い物を手にし一人は上に向かって手を伸ばしています。

ハゼの木から下に伸びた線は大きな人のような物体を通り二人の体にも触れています。

それはハゼの実を手繰り寄せる金具からイメージしたものです。

丸い鉄は初めて作りましたが苦労しました。

こうして出来あがった作品でしたが、今私の手元を離れて静かに見つめてみると
これはハゼの実などでは決してなく、大きななにかを手に入れさせてくれようとする別の存在が、あなたたちを
導き守っているポエムの構図に思えてきます。
私も知らず知らずになにか大きな力で導かれたのかもしれない。
大切に頂くことを願って、感謝いたします。
有難うございました。